

YMFfg

2025 VOL.11

from
北 山
九 島
州 県

LOCAL
ISSUE

この世界で。この街で。このじぶん。

人のわ、街のわ

(*synergy*)

遊びと育ちの、わ | デザイナーと企業の、わ
街と人の、わ | うまいコラボ



じぶんの人生から 出ていこう。

宇宙に果てが あるのか ないのか
知らない けれど。

いま ここから、
どれだけ 遠くへ 行けるのか、
ただそれを 試したい。

人生が冒険 ならば。
人生が 一度しかない ならば。
心は、感情は、精神は、
同じ地点に 居続けられる だろうか。

動けば、必ず 動き出す。
はじめれば、必ず はじまる。
仕事 という名の この冒険の
あしたを あさってを、
僕らは 幸運にもまだ 全く知らない。
仕事は、 じぶんを 閉じ込めない。
むしろ 逆でしょう。 逆。

この世界で。
この街で。
このじぶん。

山口銀行 もみじ銀行 北九州銀行

YMfg

新たな共創のカタチを 三都で見つけました

【山口県】

P06

遊びと育ちの、わ

固定の場所を持たないプレーパーク

【広島県】

P12

デザイナーと企業の、わ

新しいクリエイティブの可能性

【北九州】

P18

街と人の、わ

津屋崎千軒を巡るスタンプトート

うまいコラボ

P11 山口県 | そよ風カレー

P17 広島県 | 広島ふりかけ

P23 北九州 | シャボン玉石けんチョコ

P24 YMfgのあした考 第6回 [一緒にやれば、もっと広がる!]

連載

P26 あしたのランチ何食べる?
[北九州] ルポンドフェール / [広島県] MORGAN /
[山口県] PAYSAN

P27 わたしを変えた住空間

P28 三都の雑貨物語

P29 ラブレター from

P30 YMfg あした新聞



COVER

PHOTO_ 西山 勲

吉野 瞬 (よしの・しゅん)

1986年、広島県出身。民藝の里 益子での8年間の修業を経て地元で独立。2023年のG7広島サミットでは各国首脳ヘテーブルウェアを制作。作陶だけではなく、異ジャンルの作家とのイベントや内装のプロデュースも行う。近年はメキシコでの滞在制作や個展、ロサンゼルスやアムステルダムでのギャラリーで作品を展開するなど活躍中。



Taller Contorno (メキシコ)にて、現地の作家とワークショップの様子。

彩り豊かな器と人と 一緒につくる毎日の食卓

僕がつくる器は日常で使うもので、賑やかで元気なものが多いです。つくるものには自身が表れると思っているので日々の豊かさを保つことを心がけていて、そのために好きなものに囲まれさまざまな人と関われる環境を大切にしています。僕個人の共創と言えば、つくるものが誰かの手に渡り、料理を盛りつけられ食卓にでてそれを囲む人たちがいるわけですが、それってもしかしたらとてつもない数の家庭でともに一つのテーブルをつくっているのかもしれないですよね。人が生きる上で食べるものを盛る器をつくっていると考えるとすごい大勢の人と何かをしているのかもしれないです。器は器だけでは絶対に使われないですから。(吉野さん)

7月から国際協力を始めた吉野さんの新たな挑戦とは?
公式Instagram限定記事もお楽しみに。



人のわ、街のわ



「人生を豊かにする」って、実際どうすればいいのでしょうか。あまりに漠然としていて、一人で考えるには限界がありますよね。だったら、私の得意とあなたの得意を持ち寄って、一緒に考えてみませんか。そうしていろんな人が手をつなげば、新しい何かが生まれ、世界はもっと豊かにひらいていくはず。今回の特集では、仲間と手を取り合い、これまでにない街の価値をつくろうと奔走する人々を訪ねました。

(synergy)



三由さん(右)と赤松さん(左)が手を組み「ハダシランド」実現が大きく前進。

禁止だらけの 公園に 子どもの笑顔が あふれる



自由に自己表現を楽しむ 山口発プレーパーク

「ここは子ども騙しの遊び場じゃない」。取材を始めた直後、運営者の三由野(みよし)なおさんが放った言葉が全てを物語る。「ハダシランド」は、綱渡りスポーツハイラインのプロで2児の父でもある三由さんが立ち上げた山口発プレーパークだ。固定の場所を持たない移動式スタイルで、特殊な技術でロープを組むジャングルスパイダーやバルクールなど、あえて危険を伴うアクティビティを既存の空間に設置する。この刺激が集中力・運動能力向上につながるという。チームスポーツのようなルールは一切なく、子どもたちは自由に遊び方を考えながら、自己表現としてスポーツを楽しむ。裸足で遊ぶ点も大きな特徴だ。靴を履いていると「痛い」という感覚を引き寄せるま

社会にインパクトを与える 新たな共創の姿

本来自由なはずの公園が禁止事項で縛られている状況に、長年憤りを感じていた三由さん。都会なら他に選択肢があるが、田舎に住む子どもにとつて公園は貴重な遊び場だ。そこで、自由で危険な「ハダシランド」のアイデアを行政に持ち込む。当初は「前

例がない」「危険だから」とたらい回しにされるも、「公園の稼働率を上げるにはまず『公園は自由な場所』という認識を回復すべき」と常々考えていた周南市役所職員赤松透さんが賛同。「ハダシランド」は周南市の小さな公園で産声を上げた。利用する空間の規制さえクリアできれば、遊具の新設費も管理費も不要。自由な場を含む多様なスタッフが運営に携わる。単なる遊び場を超えて、持続可能でインクルーシブなビジネスモデルを形成しているのだ。ここで冒頭の三由さんの言葉につながる。「僕らがやっているのは『ソーシャルインパクトスタートアップ』なんです」。公園に子どもの笑顔を取り戻したいというパパスリートの想いが、社会にインパクトを与える新たな共創へと進化した。

固定の場所を持たない遊び場 ハダシランド

子どものための プレイスメイキング

PHOTO_ 勝村祐紀 (一部、ハダシランド提供) TEXT_ 片桐絵都 EDIT_ 後藤麻与





エリア急速拡大中

「共育」 ネットワーク

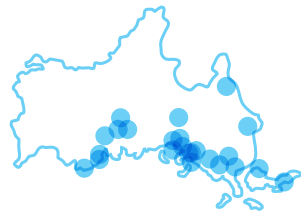
アスリートから起業家へ邁進する三由さんは、YMF GZONEプランニングが開催したスタートアップ起業家育成プログラム「山口レボリュションナリーズ」に出場。危険や不安定が伴う綱渡りスポーツ・スラックラインが脳幹を活性化させる効果に着目し、綱渡りのVR体験をリハビリに活かすという事業プランを発表して大賞を受賞した。危険を前提とした(ハダシランド)は、このアイデアがベースとなっている。当初は会員制を導入することで参加のハードルを上げてしまおうのではないかと懸念したが、半年で1000世帯を獲得。家でも習い事でも見たことのない子どもの表情に感動した参加者がSNSにその様子をアップし、一躍人気

に。おかげで広告を打っていないにもかかわらず、会員数は2年で5倍に増加し、移動式ながらリビート率は70%を超えている。会員には我が子の発達障害に悩む親も少なくないという。しかし三由さんは「そんな関係ない。この子たちは全員出世しますよ」と断言する。その確信の奥には、自身も学習障害を抱える中、クライマーの父の影響で10歳からボルダリングを始め、論理的思考を養ったという実体験がある。同様に、これまでの活動を通して、親とのコミュニケーションも難しいほど無口だった子が、スラックラインとの出会いをきっかけにおしゃべりになり、国立大学に合格したり、彼女とリア充ライフを送ったりといったほえまし

い成長も数多く見てきた。「子どもの一番の欲求は、1億円かけてつくる立派な遊具じゃない。親と手をつないで遊ぶことなんです」。あえて危険に飛び込み、刺激に夢中になることで、論理的思考が育まれていく。その傍らに在る親は、子どもの可能性を決めていた自分に気づきハッとするとともに自由を創造することが、親と子がともに育つ「共育」へとつながるのだ。県内での人気の高まりはもちろん、最近では県外での開催も増えており、「共育」のネットワークは全国へと拡大している。先進的なビジネスモデルとして特許も申請中だ。(ハダシランド)の「自由で危険な挑戦」は、これからも続いていく。

開催実績

山口県内 25 箇所



地域を飛び出し
遠くにも!

広島県

ひろしまゲートパーク
ひろしまゲートパーク西側の川辺
広島ジャズ〜Peace & Music〜
街の森のアトリエ
平和大通り公園
千田公園
東千田公園
広島銀行

神奈川県

相模原市立産業会館

埼玉県

インフラスタンド

ゼオンアリーナ周南
周南緑地東緑地公園
やまぐちフラワーランド
周南公立大学
周南市徳山動物園
ボートレース徳山
TOKUYAMA DECK
かくれがマルシェ in 鹿野
グリーンステイながうら
遠志緑地公園
新山口駅
徳山駅
山口大学
山口きらら博記念公園
WILD BUNCH FEST.
青空天国いこいの広場
tsyハウジングプラザ山口サエラ
児玉公園
俵田翁記念体育館
柳井青年会議所
守和さくらパーク
愛宕山ふくろう公園
らんかん高原放牧場
片添ヶ浜海浜公園
たかつき感謝祭 in 田布施町

※2025年6月現在

パパアスリートから始まった

「共遊」 バトンリレー

参加条件は「自己責任」
無料の会員制コミュニティで
ハダシランドを運営



危険を伴う遊びのため、親が子の安全管理を行う規約を設定した会員制に。大きな事故なく実施でき、運営側のリスクも回避。

COMMUNITY

スポーツ従事者&
子育てに悩む親5名で
協同組合を結成



福村さんに加え、経営理念を同じくする3名が(ハダシランド)の理事として集結。組織体制が整い、自律的な運営が可能に。

IDEA

エクストリーム
スポーツを活かした
運動機能向上事業開発



〈ハダシランド〉の母体であり、冒険的なスポーツ体験で運動能力・リハビリ効果向上を実現する〈ボナー株式会社〉設立。

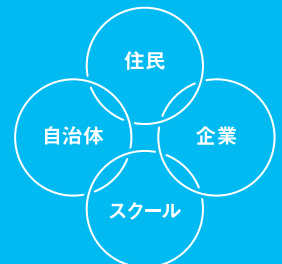
ACTION

アウトドアコンテンツを
展開する同志と
イベント運営体制を整える



体幹トレーナーの福村紅子さんと出会い意気投合。共同でコンテンツを展開し、スポーツイベント運営の土台を築く。

一市民の夢が 街を飛び出す一大イベントへ



2010年、生まれ育った東京から縁もゆかりもない山口へ移住した三由さん。2022年に(ハダシランド)を立ち上げるまでには、実にさまざまなストーリーがあった。一市民が描いた夢は、子育てや街づくりに課題意識を持つ地域の大人たちが手を携えることによって、より高く飛躍していくことになる。今や全国から問い合わせが殺到している移動式プレーパークの広がりの軌跡を辿る。

地域ならではの個性同士
が合わさると、よりパワフル
な街のニュースタンダード
が生まれる。そんな“味”な
化学反応をご紹介します。

うまい コラボ



そよ風が運んでくる
爽やかな甘さとスパイス

山口県民は〈やまぐち県酪乳業〉に育てられたと言っても過言ではない。なぜなら県内の9割以上の学校に給食用の牛乳を提供しているから。同社のロングセラー商品が「そよ風ヨーグルト」だ。爽やかな甘さと清涼な余韻は、まさにそよ風のように。この美味しさを県外の人にも知ってほしいと、「そよ風ヨーグルト」の味を常温で持ち帰れる「そよ風カレー」を生み出した。タッグを組んだのは岩国市の老舗レトルト食品メーカー〈丸兼食品〉。単にコラボ商品をつくるだけではブラ

ンドイメージは守れない。「そよ風ヨーグルト」本来の味を損なわずにカレー好きにも認められる商品にするため、2社間で議論を交わし、試作を重ねた。「いやあ、なかなかのプレッシャーでしたよ」と当時の開発担当・西村岳彦さんは苦笑する。試行錯誤の末、互いの風味を引き立てるベストな配合量を導き出した。封を開けた瞬間に甘い香りが立ち上り、ひと口頬張ればそよ風が吹き抜ける。県民なら誰しも「ああ、この味!」と膝を打つはず。子ども向けのマイルドなカレーかと思いきや、甘さの後はスパイスの鮮烈な辛味がしっかりと追いかけてくる。ゴロゴロと入ったチキンも食べ応え十分だ。「レトルトカレー開発の名手である丸兼さんとだからできたこと」と西村さん。通販を望む声も多いが、「山口という土地に来てもらうことに意義がある」と、実店舗以外の販路を広げることはしない。ブレない姿勢までもが、そよ風のように爽やかだ。

山口県

そよ風カレー

●ご当地ヨーグルトとスパイスのマッチング

●きたうらきらジェラートMamena、美東SA(上り)、山口県内一部の道の駅や牛乳販売店にて販売

〈やまぐち県酪乳業〉×〈丸兼食品〉

お問い合わせ先：やまぐち県酪乳業 (083-288-0525)

ハダシランド的子育て術

「大切なのは運動神経よりも好奇心。トライアンドエラーの回数が多い子ほど天才へと近づく」と語る三由さん。ハダシランドで遊んだ親と子はどう育つ?

ハダシアソビで 夢中力を伸ばす

体感的に得た一次情報が脳の発達を促すという脳科学的根拠から、裸足での遊びを推奨。野球などのチームスポーツが苦手な子どもでも、ここでは爆発的な能力を発揮することが多い。潜在能力を発見でき、自己肯定感も高まる。



同じ悩みをもつ
親と親をマツチング

危険な遊びをともにする会員制コミュニティのため、子どもへの想いや教育理念が一致しやすく、一体感が生まれる。お互いの名前や職業を知らなくても自然とゆるい繋がりが育まれ、子育ての悩みを話せる心強い同志に。

遊びの達人
に学ぶ

三由さんはプロクライマーであり、日本人でただ一人、命綱なしのフリーソロを行うハイレイナーとしても知られるレジェンド。その他にも一流のインストラクター陣が子どもたちを見守りながら、潜在能力を最大限に伸ばす。

知らない
できないに
飛び込む

「できないことができること」が〈ハダシランド〉のコンセプト。大人の腰の高さまであるスラックラインなど、到底できないと思うものに挑戦してできるようになると、自分の可能性に気づき、生きがいを感じることが出来る。

ハダシランド

企画：ボーザー株式会社

運営：アウトドアスポーツやまぐち協同組合

Instagram: @hadasiland

企業とデザイナーをつないで
課題解決の一助に。

田中志保さん

企業について深く知ることを
大切にしています。

武田佳代さん

広島市産業振興センター デザイン支援室

中小企業のデザイン指導・相談、
デザイン人材育成、デザイン団
体のネットワーク形成、ひろしま
グッドデザイン賞の運営を行う。
2017年より、広島市による企
業と地域デザイナーのマッチ
ング事業「と、つくる」も運営。



仕掛け人
のお二人

ものづくり共創型 マッチングサービス 「と、つくる」の 誕生まで

協業によって生まれる
デザインのシナジー効果

広島市のデザイン振興を目的として、1999年にデザイン支援室が広島市産業振興センターに設置された。中小企業へのデザイン支援を行うなかで、広島を拠点に活動するデザイナーと地元企業との共創が増え始めたことをきっかけに、2者をつなげるシステムとして2017年に立ち上がったのが「と、つくる」というマッチングサービスだ。運営を行う田中志保さんと武田佳代さんが、支援室を訪れる企業とデザイナーをつなぐ役割を担っている。「広島は自動車製造に関わる企業が多いこともあり、元々は技術先行でデザインの優先度は低い街でした。その後、技術だけではモノが売れないという時代を経て、経営者自身がデザインも重視する「デザイン経営」の考え方にシフトチェンジしてきたように思います」と田中さん。今では、企業のニーズも「ものづくり」の概念も有形のモノとして、ではなく無形の「コト」として、のデザインも加わってきていると言う。「企業や経営者の悩みの根っこを知るために、私たち自身も企業を深く知ることが大切になっています」と武田さんが話すように、実際のデザインに至る前段階の企業の現状を明確に把握し、俯瞰して捉えることで、企業の想いとデザイナーの個性とでシナジー効果を最大限に発揮するマッチングの提案につながっている。経営課題を自社のみで解決するには限界があるが、そこにデザインの専門知識を持つ2人とデザイナーの視点をプラスすることで新しい価値が生まれ、まだ見ぬ世界が広がっていく。デザイン思考で業界を超えた融合の可能性を模索し形にする「と、つくる」の存在が、企業や経営者にとって新たなチャレンジへの後押しとなっている。



人のわ、
街のわ
「広島県」

デザイナーとつくる。 企業とつくる。

新しいクリエイティブの可能性

ものづくりにおいて、技術と並んで重要視されるデザイン。企業とデザイナーとの橋渡しを行い、デザインの方で、ものづくりに新たな価値を生み出す「と、つくる」とは。

PHOTO_「と、つくる」(一部、鷲崎浩太郎撮影) TEXT_住田茜 EDIT_福津くるみ



ニーズに合ったマッチングを相談したい……。

どうやって利用する？

デザイナーとの協業を検討している企業にデザイナーを紹介し、マッチングをサポート。まずはウェブサイトを確認して、気軽に問い合わせよう。

1

企業



ウェブサイトを見る

2

企業



窓口で相談

3

企業



デザイナーと会う

4

企業



直接発注

「と、つくる」公式サイト →



「と、つくる」では実際にどんなコラボが生まれているのか。

ここでは、「と、つくる」を利用して誕生した企業とデザイナーとの協業事例を紹介します。

《 酒蔵 》と《 グラフィックデザイン 》



クライアント



デザイナー

優しいニュアンスのラベルが 日本酒の味わいにもマッチ

1880年に創業し、「賀茂金秀」を筆頭に丁寧な酒造りとその味わいで多くのファンを持つ「金光酒造」。従来の日本酒のラベルではブランドの統一性がなかったことから、その刷新のため「と、つくる」を通してタグを組んだのが〈guide〉。デザイナーは普遍的で魅力あるロゴの制作に加えてラベルの印刷方法にも精通しており、蔵元の酒造りへの姿勢や日本酒の味わいを豊かに表現する優しいニュアンスのラベルを制作。デザイナーとの協業が初めてであるクライアントの状況を考慮して、カメラマンなどを含めた制作陣のチーム体制をしっかりとつくり上げ、ラベルデザインを通してブランドの統一性を図るところから酒蔵全体のブランディングの役割も担った。



《 養魚場 》と《 グラフィックデザイン 》



視覚的に伝えていく ヤマメの美しさ



クライアント



デザイナー

清らかな水ときれいな空気を有する環境に生息している川魚、ヤマメ。その自然環境を生かしてヤマメの養魚場と釣り堀を営む〈滝ヶ谷養魚場〉では、ヤマメを使った加工品を新たに手がけるにあたりデザイナーと協業。デザインを通したブランドの基礎構築を得意とする〈飛企画〉とともに、ヤマメの魅力を最大限に伝えるものづくりに取り組んだ。クライアントからヤマメにかける想いと今後の展望をヒアリングし、ロゴや商品のパッケージデザイン、ウェブサイト、オンラインストア、パンフレットを制作。イラストや写真など視覚に訴えかけるデザインを軸に置くことで、豊かな自然環境で育つヤマメの美しさや繊細さを伝えて、加工品の認知度向上や販路拡大につなげた。

《 スイーツ 》と《 グラフィックデザイン 》



クライアント



デザイナー

贈り手と作り手の 想いを届けるパッケージ

砂糖や保存料を使わずにつくる低糖プリンをメインに製造・販売を行う〈SWEETS LABO Laugh & Rough〉。看護師として勤務経験のあるオーナーが手がけるスイーツは子どもから高齢者まで広く愛されていて、オンラインショップでも販売中。低糖商品という特徴から目上の方へのギフトとしてのニーズも高まっていたことを背景に、パッケージのリニューアルを希望して「と、つくる」を通してマッチングしたのが〈ひねくれデザイン〉。「優しくて少し大人っぽいパッケージ」という依頼に対して、デザイナーは商品や店についてのオーナーの想いをくみ取りながら、デザイン視点で新しい世界観を提案。ギフトの贈り手はもちろんオーナーの想いも一緒に届くような、優しいデザインに仕上がった。



企業の想いを カタチにする。

私たち、こんなコラボしました！

《 食品卸業 》と《 グラフィックデザイン 》



だしの新たな価値を “うまい顔”のイラストで表現



クライアント



デザイナー

食品卸業の〈吉寅商店〉が自社開発・販売を行う、島根県浜田市でソウルフードとして昔から愛されているマトウダイを使った「バトウの万能だし」。そのパッケージのリニューアルを〈kirin〉が手がけた。デザイナーはマーケティングとブランディングから提案。だしのほっこり感のあるうま味を価値として引き出し、うまいものを食べたときの人の顔“うまい顔”を温かみのあるイラストにしてラベルを制作した。県外展開も目指していた商品だったことから、展示会でも活用できるコンセプトブックやギフトボックス、ブースづくりの提案も行うなど、パッケージだけに留まらない、地域で愛されるだしの新たな価値を発信する地元感を大切にブランドづくりを行った。

《 設計・施工 》と《 プロダクトデザイン 》



クライアント



デザイナー

企業の新たな可能性を示す 家具シリーズを提案

木材加工技術を生かした注文住宅やオフィス改修の設計・施工を行う〈三四五屋〉では、家具や什器まで含めたトータルでの空間提案を行いたいと家具ブランドの立ち上げを検討。「と、つくる」で出会った〈フジモトプロ〉にオリジナル家具のプロダクトデザインを依頼した。〈三四五屋〉の木材加工技術を活用したオフィス家具シリーズのデザインを任されたデザイナーは、“公園のような自由で開放的な空間で仕事をしている体験”を再現する家具シリーズを提案し、木と鉄を組み合わせてつくるデスク、パーテーション、ワゴン、椅子を制作。クライアント初のオリジナル家具として誕生し、「PA RK」と名付けられたこのシリーズは、企業の新たな可能性を示すデザインとなった。



《 行政 》と《 グラフィックデザイン 》

デザインと機能を兼ね備える 各種広報ツール



クライアント



デザイナー

創業・起業準備に関するさまざまなことを相談できる公的機関〈ひろしま創業サポートセンター〉。パンフレットに加えてウェブサイトやSNSといった広報ツールの強化のため、複数のデザイナーとの意見交換を経た後に、ウェブデザイン制作も得意とする〈SOLALA〉へ依頼することに。デザイナーはセンターの取り組みをわかりやすく整理し、ブランドメッセージをより明確に発信できるようロゴデザイン、パンフレット、ウェブサイトをシンプルかつ美しいデザインで制作。スマートフォンで簡単にセミナーへの参加申し込みができるようにするなど、機能面からの使いやすさにも配慮した。創業・起業を目指す人からの、より多くの活用へとつながっている。



新しいシナジーを生み出す、デザイナーからクライアントへの想い

デザイナー



込山宏美
HEREDIA KOMIYAMA
インダストリアルデザイナーのPaul Herediaとのユニット。プロダクトデザインを中心に、企画段階から企業とともに取り組む。

ユーザー心をくすぐるデザインで企業とともに伴走する

協業する企業の自社ブランドの商品づくりに携わる機会が多い込山さん。「専門技術を持つ企業にとっては当たり前のことでも私たちにとっては当たり前ではないことが多くあります。それを知ること、最終的にデザインにつながるような発見や気づきを得られることはたくさんあります」。その際に大切にしているのが、ユーザーの視点。「技術に長けている分、販売の視点が少ない場合も時にあります。使い心地はどうか、使いたい、買いたいと思えるものなのか。デザイナーとしてそうしたユーザー視点を考慮し、最初のコンセプトから考えて提案するようにしています」。企画段階からコミュニケーションを大切に、成功に向けて一緒に取り組むパートナーのように伴走する。



アウトドア用品の企画・販売を行う〈QAMAR〉との協業で作ったマルチウォータータンク。



国内外に魅力を伝えるべく、軸部分の素材や形の提案をした〈文進堂煙製筆所〉の化粧筆。

デザイナーなくしてはこのプロジェクトは成立しませんでした
「株式会社QAMAR」

クライアント

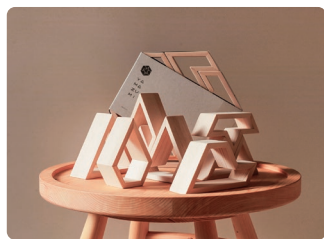
デザイナー



柳谷 武
千差株式会社
柳谷環・武がCEOを務めるメーカー兼デザイン事務所。インテリアにもなる知育玩具の開発・販売のほか、受託も行う。

メーカーとしての経験を生かし企業とともに新たな挑戦を

おもちゃメーカーとしても事業展開していることを背景に、子どもや親子を軸とした関連企業との協業が多い柳谷さん。「デザインの一歩前段階から考え、試した上で提案を行っています。例えばマーケティングとして私たちが実際に商品を仕入れて販売し、その反応を踏まえてデザインを考えることもあります。自社での製造・販売を経験しているからこそ、企業の担当者オンラインストアなどのオペレーションを説明できることも強みです」。メーカーとしてのノウハウと、そこに裏付けされたデザイン提案で、さまざまな取り組みが形になる。「これまで経験したことのないことに挑戦するのは、自分たちにとっても企業にとっても進化につながります。その姿勢を大切に、次につながる挑戦を企業と一緒にしていきたいです」。



仏壇の格子組子を製造する〈栄光工芸〉の技術を生かした積み木、「YAMAZUMI」。



林業法人とともに、樹齢/切株座標を辿る木材開発を手がけ、誕生した「HIBA RINGS」。

自分たちの得意を知ってもらうことで挑戦できたものづくり
「有限会社栄光工芸」

クライアント

地域ならではの個性同士が合わさると、よりパワフルな街のニュースタンドが生まれる。そんな“味”な化学反応をご紹介します。

うまい コラボ



ご飯のおとも、ふりかけで 広島を毎日の食卓に



〈田中食品〉×〈広島食品企業〉

お問い合わせ先：田中食品(082-232-1331〈代〉)

広島県

広島ふりかけ

- 食品メーカー・食材・食文化のマッチング
- 広島県内一部スーパー、旅行の友本舗、田中食品オンラインショップにて販売

波乗り
うさぎ

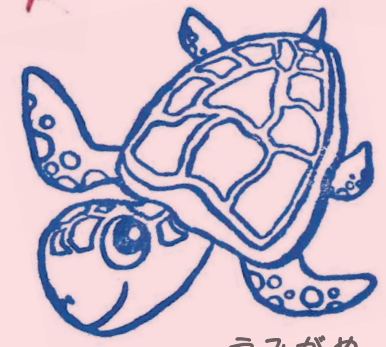


「波折神社」境内にある、
兎年の信者たちによって
奉納された石像。波の上
をびよんびよん跳んでいる
様子が、海の街ならではの。

さざえ



津屋崎はサザエも人気。玄
界灘の荒波で育つため、ト
ゲが長いのが特徴。漁師た
ちが素潜り漁で捕っている。



うみがめ

福津市の海岸は、うみがめ
がやってきて産卵を行う貴
重な場所。福津市役所では、
環境に関わる部署に「う
みがめ課」と名付けている。

津屋崎
千軒で

スタンプ集めて、 トートつくって、 街と仲良く



豊村酒造の
「煙突」

大きくそびえる煙突は、津屋
崎のランドマーク。明治期
の酒造りを伝える「豊村酒
造旧醸造場」は、国重要
文化財に指定されている。

豊村酒造の
「豊盛」



津屋崎の中心部に位置
し、明治時代には九州最大
級の醸造量を誇った「豊村
酒造」。清酒「豊盛」は地
域の人に親しまれてきた。

PHOTO_ 大城ひろみ TEXT&EDIT_ 浅野佳子

福岡県北部に位置する福津市。玄界灘に臨むこの地域に、昔ながらの趣きを残す白壁づくりの一角がある。江戸時代から製塩や海上交易によって賑わい、人家が千軒もあるほど繁栄している。様子から「津屋崎千軒」と呼ばれてきた。時代を経て当時の様子を伝える町並みは、水産庁の「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」や「福岡県美しいまちづくり賞 優秀賞」などに選ばれている。

しかし景観そのものは素晴らしいが、実は大切なのは、津屋崎千軒は保存された街ではなく、「今も街に住む人や関わる人たちに、よって大切に使われ続けている街」ということである。

2024年に「津屋崎千軒なん軒目？スタンプトート」という企画がスタートした。無地のトートバッグを購入し、津屋崎千軒のさまざまな場所に設置されたスタンプを押しながら、自分オリジナルのバッグをつくっていくというもの。バッグづくりを楽しむことが、そのまま津屋崎の街歩きにつながる。絵柄もすべて津屋崎と深く関わりがあるものばかりだ。

これは観光の拠点である「津屋崎千軒なごみ」を中心に、津屋崎の住民が集まって企画を出し、どのような絵柄がいかを話し合い、地元のアーティストに依頼して絵柄を描いてもいい、実現に至った。津屋崎千軒では、スタンプトートバッグにその一端が表れているように「街とともに」住民とともに活動する「様子」が見られる。

街の歴史や魅力を
住民と一緒に探し出す

山笠おいしゃん（新町）



毎年7月には、住民が楽し
みにしている勇壮な「津屋
崎祇園山笠」が行われる。
「新町流」は、商業の街を
中心に組織されている。

山笠おいしゃん（北）



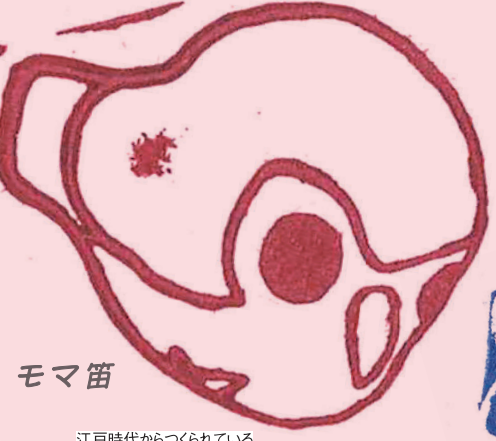
「北流」は、漁業に関わる人
を中心に構成される。「筑
前津屋崎人形巧房」の人
形師が丹精込めた人形で
飾られた山笠にも注目！

山笠おいしゃん（岡）



「岡流」は、農業に関わ
る人を中心に構成され
る。津屋崎千軒の狭い
路地を山笠が駆け抜
ける「追い山」は、必見！

津屋崎千軒の町並み



モマ笛

江戸時代からつくられている
津屋崎人形を象徴する「モ
マ笛」。モマとはフクロウの
ことで、いまでも日常的に「ホ
ーホー」と声が聞こえるそう。



家が千軒もひしめくよう
だったことから「津屋崎千
軒」と呼ばれてきた。今なお
当時の面影を残す町並み
が多くの人を惹きつける。

カフトガニ



津屋崎干潟では、絶滅危
惧種である「カフトガニ」が
生息している。希少な動植
物が多い、津屋崎干潟そ
のものが貴重な存在。



イカ

実は福津市は知人ぞ知
る「イカ」王国でもある。ヤリ
イカ、コウイカ、アオリイカ
など旬のイカが楽しめる。

クロツラ
ハラサギ



しゃもじ型のくちばしが特
徴で、絶滅危惧種に指定
されている希少な水鳥。津
屋崎干潟は、全国でも珍
しい飛来地のひとつだ。

津屋崎の「崎」



「崎」に描かれているの
は、波折神社から遠く
に見える、在自山にある金
刀比羅神社の紅白の鳥
居。小さいからよく見て！



津屋崎の「屋」

津屋崎の眼の前には、
白砂が美しい遠浅の海
岸が約3km続いている。
「屋」の中には、ビーチや
カニ、貝が描かれている。



ここからの
景色が最高
なんです



波折神社



街の人たちから
親しまれる氏神様
「波乗りうさぎ」柄のスタンプが押せる
〈波折神社〉。参拝したら、「津屋崎みくじ」を引いてみて。吉や凶の代わりに、津屋崎のおじさんおばあさんたちの、ちょっと哲学的な言葉が書かれている。解釈はあなた次第。
HP: www.namiori.net

スタンプ
あり



一緒に歩いた人

津屋崎千軒おしゃべり会
小才透さん、古閑由美さん

津屋崎千軒のお店などの有志が集まって、定期的にワイワイ情報交換中。「津屋崎千軒おさんぽマップ」を毎年更新する、津屋崎のプロフェッショナル。



トートをつくりながら、津屋崎を知る



お魚センターうみがめ

津屋崎の美味しい魚を
ゲットしよう

サザエや真鯛がスタンプの柄になっていた通り、津屋崎では旬の魚が水揚げされている。魚を新鮮な状態で購入できるのが、〈お魚センターうみがめ〉。一匹まるごとの魚も調理代を支払えば、希望の形にさばいてもらえる。
Instagram: @osakanasenta.umigame

街の人が集まる
コミュニティスペース

こちらは一緒に街歩きをした小才さんの活動拠点。津屋崎千軒の真真中に泊まれるゲストハウスで、1階は街の人たちが集うカフェやコミュニティスペースとして開放されている。街歩きで疲れた時は、こちらで一息。
Instagram: @oh_maruya

スタンプ
あり



みんなの縁側 王丸屋



店主の
もう一つの顔は、
まちを紹介する
YouTuber!



まずはここで無地の
トートバッグを購入

観光の拠点となる〈津屋崎千軒なごみ〉で、300円(税込)の真っ白なトートバッグを手に入れ、最初のスタンプをゲット。思い切って大胆に押すのがコツ。ここで「津屋崎千軒おさんぽマップ」をもらい、いざ街歩きへ!
Instagram: @tsuyazaki_nagomi

スタンプ
あり



筑前津屋崎人形巧房

とぼけた持ち味で
人気沸騰中の郷土玩具

江戸時代から続く津屋崎人形は、素朴な形と鮮やかな色が魅力。写真左から、津屋崎の言葉でフクロウを指す「モマ笛」、かつては子どものおしゃぶりだった「どん太」、この地域で出土する古代の貝面をかたどった「貝面童子」。
HP: tsuyazaki-ningyo.club

スタンプ
あり

手仕事の
ぬくもりを
感じる



路地に
迷い込んで
みるのも
おススメ

豊村酒造

古の酒造りを体感

街の中心にそびえ立つ煙突が目印の〈豊村酒造〉。当時の様子を伝える建築は国重要文化財に指定され、見学も受け付けている。130年以上続けられている戸や壁の一部を取り扱う夏支度など、季節を感じる風習も多く残る。
Instagram: @shuzou_toyomura

スタンプ
あり



旧玉乃井旅館

築120年の木造旅館を
現代に引き継ぎ活用中

かつて海水浴客で賑わった旅館を、保存しながら活用している。この日はちょうど1階の〈ミチクサ醸造所〉ではクラフトビールを仕込み中。週末だけの本屋〈enden books〉や月に一度の〈BAR玉乃井〉などユニークな取組みもいろいろ。



藍の家

明治時代の暮らしを
想像してみる

津屋崎の文化を知るなら、〈津屋崎千軒民俗館 藍の家〉へ。もともと藍染屋だった町家を大切に使っている。一緒に街歩きしてくれた古閑さんは、こちらの保存会でも活動中。随所に凝らされた町家の工夫を、ぜひ聞いてみて!

スタンプ
あり



完成!

一日の思い出が染み込んだ、唯一無二のトートバッグが完成。使うたびに津屋崎で出会った人たちの顔が思い浮かびそう。

地域ならではの個性同士
が合わさると、よりパワフル
な街のニュースタンダード
が生まれる。そんな“味”な
化学反応をご紹介します。

うまい コラボ

北九州を代表する企業の一つ、〈シャボン玉石けん株式会社〉のキャラクター「シャボンちゃん」と、その主力商品である「シャボン玉石けん」が、なんとチョコレートに。まるで石けんと見間違えうような真っ白なホワイトチョコレートは、見た目のかわいさだけでなく、濃厚で滑らかな食感で本格的な美味しさだ。実はこのお菓子、シャボン玉石けんと地元の人気洋菓子店〈ネジチョコラボラトリー〉のコラボレーションで生まれたもの。さらにチョコレートをつくる型は、西日本工業大学総合シス

テム工学科の学生が3Dプリンターで制作した、産学連携のアイテムでもある。つまりトリプルコラボでできたお菓子だ。シャボン玉石けんが、現在のように無添加石けんにこだわるようになったのは、当時の国鉄から「機関車を洗うための、無添加の粉石けんがほしい」というオーダーを受けたことがきっかけだった。その結果1974年に生まれた無添加石けんは、体や環境に優しいことがわかり、すべての製品を無添加に切り替え。当時は売上が激減したが、「体に悪いとわかったものを売るわけにはいかない」と、現在にいたるまでつくり続けられている。無添加石けんに切り替えた翌年に誕生した「シャボンちゃん」は、今年50歳を迎えた。「シャボン玉石けんチョコ」は、北九州を訪れた旅行者や、北九州から他地域へ出かける人の手土産に使われることも多い。「実はこのチョコね…」とそこそこで会話の始まりとなっているそうだ。

この石けん、食べられます！
正体はホワイトチョコ



北九州

シャボン玉石けんチョコ

- 企業キャラクターと洋菓子店と大学のマッチング
- 北九州観光コンベンション協会の「北九州おみやげ館」、ネジチョコラボラトリーの直営店やオンラインショップで販売

〈シャボン玉石けん株式会社〉×
〈ネジチョコラボラトリー〉×〈西日本工業大学〉

お問い合わせ先：ネジチョコラボラトリー (<https://nejichocolab.jp>)

街の人が
なぜか
始めてしまう
津屋崎の
不思議

「自ら取りに行く」
観光のありかた

津屋崎千軒は、徒歩で散策するのがピッタリの広さだ。「津屋崎千軒おしゃべり会」作成のマップ片手に、小才さん、古閑さんと街歩きをしていると、この土地がこれまでに歩んできた歴史、どんな産業があったか、ここで食べられているものと自然との関係など、地域の輪郭がはつきりしてくる。

「津屋崎は、受け身ではなく、自分で取りに行く人。にとっては、訪れるのがとても楽しい街です」と小才さん。「津屋崎千軒なん軒目？スタンブート」は、派手な観光施設がない津屋崎でこそ力を発揮する。街を歩いて街の人と話し、スタンプを押してトートバッグがでかあがる頃には、街にちょっと詳しくなり、津屋崎をすいぶん好きになつている。

街の人たちが自然と始める

スタンプを押していると、街の人に声をかけられ、自然と会話が始まる。驚くのは、さまざまな取り組みの多くを、住民が自然発生的に始めていることだ。



画像提供：ひかりのみちDMO福津

福津市には福岡海岸、宮地浜、津屋崎海岸と約3kmに及ぶ遠浅の海岸が続いている。干潮時に砂浜がまるで鏡のように空を反射する様子が、「かがみの海」と呼ばれている。

例えば〈波折神社〉で受けることができる「津屋崎みくじ」は、地元で暮らすイラストレーターと地域の人たちが「高齢者の人たちが飛び出すユーモラスで哲学的な言葉を、おみくじにできるのでは？」と発案し、自分たちで制作して神社に納めている。神社の神主さんたちも「地域の人たちがつくってくださつて、ステキでしょう」とニコニコと話してくれる。街歩きの中で立ち寄った〈旧玉乃井旅館〉も、所有者が音頭をとるというより、場を大切に思う人たちが集まってプロジェクトが立ち上がり、建物を保存しながら、若い人たちによる活用が実現している。

残そうとした人たちの
気持ちを受け継ぐ

ひよつとしたら津屋崎らしい「自分たちで始める」精神の根っこにあるのでは？と感じる言葉が、古閑さんからポロリとこぼれた。明治期から残る町並みについて話していた時だ。「よく、100年以上にわたってその時々で努力してきた人がいたことを考えるのよね。なくすのは簡単だけど、なくなつたらつまらない」。

これまで街を大切にしてきた人たちが自分と連なっているから、人任せにはできない、なにか関わりたい。津屋崎千軒という器が、住民たちに活動したくなる動機を与えているのかもしれない。

風光明媚な景色に惹かれてやってきて、津屋崎の不思議な魅力に気づく人は多い。この街に関わりたいたいと移住者が増えている理由がわかるような気がした。

第6回

【一緒にやれば、もっと広がる!】

近頃YMFGでは、“銀行外”の団体や人と一緒に事業に取り組んでいる例が増えています。一緒にやるとなにかいいの、一緒にやるときのコツは？実際の現場に携わる3人が、これまでの経験から語り合います。

TEXT_ 浅野佳子
ILLUSTRATION_ 堀内えりか



YMFGキャピタル

平原遼

ひらはら・りょう / SAS (Shimonoseki Add-venture Summit) 担当。地域とスタートアップ関係者が集い、共創を目指す。



北九州銀行営業統括部

竹本夢輝

たけもと・ゆめき / 地域・社会貢献担当として、北九州市立大学との連携協定やさまざまなコラボレーションを担当。



もみじ銀行尾道支店

西原幸作

にしはら・ゆきなり / 支店長として、もみじ銀行が支援する旅館再生プロジェクト(尾道倶楽部など)に携わる。

イマドキの銀行は地域と一緒につくる!

西原 — 私からまず瀬戸内ブランドコーポレーションさんと一緒に取り組んでいる尾道の旅館の再生についてご紹介します。「尾道倶楽部」として2025年3月にオープンし、いわゆる銀行としてはきちんと融資を実行すれば仕事としてはOKなのですが、「これだけでは面白くないな」と、旅館の運営会社に宿泊者の満足度を高めるための地元のクルーズ会社や清掃会社を紹介するなど、踏み込んだご提案をしました。結果的に行内で評価され、DMO(観光地域づくり法人)の賞をいただくことができました。

竹本 — 銀行として一歩踏み込んだのは、なにか理由があったのですか？

トを得られることから、「地方でやる意義」を感じてくださっています。イノベーションの真ん中にいる方たちが、その課題意識をローカルに落とし込んだらどうなるか？この中から新しい軸が生まれてくることを期待しています。

だからこそ、私たち自身がこういう世界をつくりたいからSASをやるのだ、という熱い思いで共感を得て、周りの人を巻き込んでいくことが不可欠だと感じています。

平原 — 当初はこの規模のサミットを下面で行うことそのものにさまざまな意見がありました。当然集客や利便性を考えれば、広島や福岡で行うことも考えられましたが、しかし、あえて括弧付きですが「本場の」地方で行うことに意味があると考えているんです。参加してくれるスタートアップは、地域企業に接することで日本の生の課題を理解でき、地域企業はスタートアップに接することで新たな課題解決のヒント



西原 — 竹本さんの話題と関連して、最近銀行に入ってくる新入社員のみなさんにも、地域課題に関心が高い方が多いことを感じています。ところが日常の融資などの業務に就くと、そこから遠ざかってしまうように感じることもあるようです。しかし社会を構成しているのは、紛れもなく地域で活動する企業や生活する人々なわけです。



西原 — 個人的な性格ですが、私はワクワクすることが大好きなんです。クルーズ会社も清掃会社ももともと知っていたので、「あれ、ここをくつければ旅館の価値も上がるし、それぞれの会社にとってハッピーでは」と気づいてしまったので、やっちゃったという感じです(笑)。

竹本 — 私は、北九州市立大学との連携を担当しています。5月3日に、地元のプロサッカーチーム、ギラヴァンツ北九州の試合があり、そこで地域創生学群の学生と一緒に、特製カップご飯3種類を企画・販売しました。隣町苅田町の米を使ったメニューは好評で、210個を完売しました。

平原 — どういう経緯で始まったのですか？当日はどんな雰囲気でしたか？

竹本 — 北九州銀行八幡中央支店の隣、地元のベーカリーショップと協業したサンドイツショップがあつて、もともと学生たちもコラボしていたのがきっかけです。当日は連携トラブルなどがあつて助け舟を出したシーンもありましたが、基本的には学生たちにすべておまかせ。彼らも楽しそうでしたし、お客さんからも好評でした。

どうしたら一緒にやる人を巻き込めるか？

平原 — 私は、YMFGが主催する地域共創サミットSAS(Shimonoseki Add-venture Summit)を担当しています。全国でも名だたるスタートアップ企業が登壇しピッチを行う場に、地域の企業のみなさんに居合わせていただき、新たなビジネスの創発を促すというものです。

そもそも地方で仕事をしていると「スタートアップ？なにそれ？」という企業がまだまだ多いのも現実です。しかしスタートアップの先進的な技術と、地域の産業が出合うことで、これまでのビジネスに新たな可能性が生まれるかもしれないと

取引先の課題を解決することは、実は社会課題の解決につながっている。

私は、仕事の場面で自分自身が感じている疑問や一歩踏み込んで「こうなればいいの」という気持ちで動機にしたり、周りの人に語ったりすることは、とても大事だよと伝えるようにしています。

一緒にやれば、相手も自分も変わる

竹本 — 私は取り組みを通じて、学生たちはもちろん周りの地域の人たちにも「北九州銀行は、なんだか相談しやすいぞ」と感じてもらえたらいいなと思っています。

西原 — そうですね。以前は銀行と地域の関わりと言えば、清掃作業やお祭りに参加するものと相場が決まっていた。ところがいまはそうではありませぬ。地域企業とのネットワークがあるというこれまで銀行がやってきたことが、価値提供できる場をつくることのできる新しい機能に結びついてきました。

平原 — 地域や他の企業のみなさんと協業すると、周りに影響を与えると同時に、自分にもいい変化があることも感じます。これまでもちろん地域のために仕事を

竹本 — 私も、学生たちの柔軟な発想に接していると、あーなんだか最近ちょっと凝り固まっていたかも、と気づくことも多い。銀行外の人たちと接することは、自分自身へのフィードバックも大きいです。

西原 — ともにつくる相手は、企業や大学、地域の人などいろいろかもしれませんが、そこに熱を持った人たちが集まってきた、最終的にはたくさんの人を巻き込んでスケールが大きくなっていくのが理想でしょうね。それが事業になれば、地域そのものの可能性が高まりますから。



わたしを 変えた 住空間

理想の暮らしを求め、
三都へ移住した人々を訪ねました。



河上敦さん・成美さん
(30代・〈VIEHÄttÄVÄ〉オーナー)

- 2020年、地域おこし協力隊として横浜から山口市の徳地地区に移住
- 移住後に成美さんと出会い結婚。徳地特産のカワラケツメイ茶を生産する組合の理事長が理想の空き家を紹介してくれ、現在は夫婦で予約制の貸切サウナ&カフェを運営
- 写真と旅をライフワークにしている

Instagram :
@vie.tokuji.sauna / @kawakamia24

火が近くにある暮らし

毎日、薪で風呂を沸かす。「火が身近にある生活を今まで味わったことがなかったので新鮮です」(敦さん)

サウナ時間は夫婦時間

週に2〜3回は夫婦でサウナへ。「仕事や旅の計画を1時間くらいかけてじっくり話します」(敦さん)

川のせせらぎを聞く

すぐそばを滑川が流れる。「せせらぎや鳥の音が聞こえてきて、とっても気持ちがいいです」(成美さん)

山口で生まれた。自分にとっては当たり前風景だったけれど、小2で転校した神奈川では、みんな山口がどこにあるのかすら知らなかった。少年期に受けた衝撃が僕を突き動かす。山口のことをもっと知ってほしい。そうだ、大好きなサウナを山口につくろう。どうせなら、自然と一体になれる趣深いサウナを。

歴史が深く、日本の原風景が残り、見渡す限りの大自然。秘境と呼ばれる徳地は、僕が思い描くサウナにうってつけの場所だった。目の前に川がある物件を選んだのは、温まった後そのままダイブできるように。サウナ名はフィンランド語で「趣」を意味する〈VIEHÄttÄVÄ(ヴィエハッタヴァ)〉にした。

移住して自由度が上がったと心底感じる。営業職として働いていた頃より時間ができたから？ いや、きっとそうじゃない。人生の趣が増したんだ。

For The Better

「2人でいるなら必要ない」と、サウナ近くに構える住居にはテレビなし。たまにプロジェクターで映画を観るくらいが丁度いい。



山口県



山口銀行
小郡支店
伊藤七美

ニュー Yorker 気分で頬張りたい 〈MORGAN〉のチキンオーバーライス

ガツンとしたものが無性に食べたい日ってありますよね。そんな時は必ず、ニューヨークスタイルのローカルフードが味わえるこちらを訪れます。店内はカラフルで、外国人客が多く、メニュー表記はほぼ英語のみ。広島市内にすることを忘れるほどアメリカンな雰囲気が漂っていて、言うなれば「もみじ銀行本店から歩いて行けるニューヨーク」。仕事の合間のいい気分転換になります。私の定番はチキンオーバーライスのLサイズ。お茶碗2杯分のご飯が入っているそうですが、スパイシーなチキンに爽やかなヨーグルトソースがマッチして、ペロリと完食できます。午後からの活力チャージに欠かせないお店です。

チキンオーバーライス(L)1,080円(税込)
広島市中区銀山町8-4
営:8:00~L.O.16:30(売り切れ次第終了)
休:水、不定休



広島県



もみじ銀行
事業性評価部
神田将

YMFG社員がリアルに通うランチの名店をご紹介。
今回は、三都にしながら海外ムードが味わえるお店をピックアップ。
たまには日々の喧騒から離れて、非日常感に浸ってみては？

PHOTO_ 岩原俊一(山口県・北九州)、小原実(広島) TEXT_ 片桐絵都 EDIT_ 天季惠

記念日を彩る至福イタリアン 〈PAYSAN〉の 自家製フェットウチーネ

阿知須でイタリアンを味わうなら〈PAYSAN〉一択! というくらい、地域で愛されている人気店。ツタの絡まる外観が印象的で、店内にはドゥオーモ大聖堂やコロッセオの壁画が描かれています。異国情緒あふれる空間は記念日の食事にもピッタリ。先日は妹の高校入学を祝って家族でランチをしました。一番感動したのが、モチモチの自家製麺! クリーミーなソースが平打ちのパスタに絡んで、とにかく絶品でした。どのメニューもボリューム満点なので、みんなでシェアできるのも魅力です。薪窯焼きのピッツアも気になったのですが、その日はお腹いっぱいいて断念…。また次に訪問する楽しみができました。

自家製フェットウチーネ キノコと生ハムのクリームソース 1,500円(税込)
山口市阿知須7395-1 営:11:00~L.O.20:00 休:不定休(HPに記載)

北九州



山口FG
カスタマーサービス部
徳永龍



勝山公園のそばにパリ発見!? 〈ルポンドフェール〉の 日替わりランチ

休日はよく勝山公園内にある市立中央図書館に行くのですが、ついでに付近を散歩して見つけたのがこの店でした。フランスの大衆酒場・ブラスリーがコンセプトで、店内に一步足を踏み入ると、まるでパリの街角に迷い込んだかのような気分。本格フレンチとワインがカジュアルに楽しめ、ランチのメイン料理は肉と魚から選ぶことができます。この前食べた太刀魚のローストは、外はカリッと、中はふわふわで、ソースとスパイスの風味が絶妙でした。私自身、料理が趣味なので、訪れるたびに創作意欲がかき立てられる店でもあります。勝山公園の緑をのんびり眺めながら、グラス片手に味わうランチは格別です。

たちうおのボフレ木の子ソース 平日1,848円、土日祝2,332円(税込)
(メインのほか前菜、バゲット、デザート付き)
北九州市小倉北区大手町3-1-110
営:11:30~L.O.14:30 休:火(祝日の場合は水休)

あしたのランチ何食べる?

What will you have for lunch tomorrow?

ラブレター from

原宿



「紫川で人生を考え、 井筒屋で幸せを噛み締めた」

北九州の小倉に生まれ、公団住宅ですくと育ちました。二級河川の紫川が家の近くを流れていて、いつも川辺で本を読んでいたね。中学に入るとサッカー、高校では勉強やバイトに明け暮れ、心身ともに過酷な青春時代を過ごしました。あんなにしんどい6年間は後にも先にもないはず。とはいえ楽しい記憶もあります。例えば家族でよく行った〈井筒屋〉。華やかで賑やかで、昔は屋上に遊園地もありました。閉店してしまったけど、JR西小倉駅近くの〈玉屋〉も好きだったなあ。1階のおしゃれなカフェで母とフルーツジュースを飲んだっけ。デパートって、僕にとっては「幸せ」の象徴なんです。あとは〈リバーウォーク北九州〉の向かいにあった〈河合塾〉も思い出の場所。カリスマ講師・青木裕司先生の講義が面白すぎて世界史にハマりました。そして勉強に疲れたら〈ブックセンタークエスト〉へ。買った本を携えて紫川沿いに佇み、「人生の意味とは？」なんて

考えたりしたものです。

僕の祖母は東京出身で、どうも慶應義塾大学の学生と付き合っていたようです。それで幼い頃から「あなたも慶應ボーイになるといいわよ」と刷り込まれ、まんまと慶應に進みました。ミーハー心で上京したのに、僕の学部のキャンパスがあるのは神奈川県藤沢。小倉よりもド田舎で拍子抜けしたのを覚えています。地元から出てよかったのは、北九州の人の率直さに気づけたこと。ヤンキーは多いし、荒々しさもあるけど、みんな心根が温かくて、回りくどい表現はしません。そんなところがすごく好きです。

北九州はバランスのいい都会です。大きな河川に恵まれ、グローバルに通用する産業があり、魚が美味しく、子育て世帯も暮らしやすい。治安もすっかりよくなりました。もう「修羅の国」ではないですね。武内和久市長のリーダーシップで、今後、さらに元気になるはずですよ。

教えてくれた人



佐々木紀彦（ささき・のりひこ）

1979年、北九州市生まれ。慶應義塾大学総合政策学部卒業。スタンフォード大学大学院で修士号取得（国際政治経済専攻）。東洋経済オンライン編集長、NewsPicks創刊編集長、NewsPicks Studios CEOを経て、2021年に〈PIVOT〉を創業。「起業のすすめ」（文藝春秋）他、著書多数。大のサッカーオタク。2023年より北九州市アドバイザーを務める。

X: @norihiko_sasaki

ILLUSTRATION_ 黒木仁史

KITAKYUSHU
《FUKUOKA CRAFT BREWING》El Borracho Mexican Light Lager | BURA BURA HAZY IPA
〈エルボラーチョ THE OUTLETS KITAKYUSHU店〉
福岡県北九州市八幡東区東田4-1-1
THE OUTLETS KITAKYUSHU 1FHIROSHIMA
《尾道ロバ牧場》ロバクッキー ハーフ缶
〈尾道ロバ牧場〉
広島県尾道市浦崎町899-3YAMAGUCHI
《中原中也記念館》中也の自筆缶バッジ
〈中原中也記念館〉
山口県山口市湯田温泉1-11-21

三都の 雑貨物語

ロバクッキーアート缶
（影絵作家 藤城清治さん作）

《尾道ロバ牧場》

缶詰が誕生したのは1810年で、缶切りが発明されたのは1858年。じゃあ48年間どうやって開けていたのかというと、ハンマーで叩いたり銃で撃ち抜いたりしていたそうです。なんとまあエキサイティングな！レトロな缶を見ると思わずときめくのは、その頃の本能が私たちのDNAに刻まれているからでしょうか。三都でも、ついつい胸が高鳴ってしまう缶雑貨に出会えます。ポップなカラーの缶バッジは、山口市出身の詩人・中原中也の生家跡に建つ〈中原中也記念館〉のもの。中也自筆の「空」折「歌」「愛」「風」の5文字がプリントされ、作品の一篇が綴られたしおりとともにアーティスティックな世界観に浸れます。〈FUKUOKA CRAFT BREWING〉は、福岡市内のメキシコ料理店から生まれたクラフトビールブランド。ルーツである店名を冠したラガーや、地元銘菓「博多ぶらぶら」のキャラが小躍りするヘイジールIPAなど、福岡味あふれるラベルがたまりません。キュートなロバのクッキー缶を手がけるのは、瀬戸内海を見下ろす小高い丘にある〈尾道ロバ牧場〉。スパイス香るアイシングクッキーが詰まっていた、通常デザインはもちろん、御年101歳の影絵作家・藤城清治さんが描いたアート缶にもグッときます。ときめきが止まらない逸品ばかりですが、くれぐれもハンマーと銃は使わずに。

「三都の雑貨物語」では、毎号ひとつのテーマに沿って集めたものと、それにまつわるエピソードをご紹介します。過去のものも公式Instagramにあるのでチェックしてみてください。@ymfg_official

PHOTO_ 勝村祐紀（広島県、山口県） TEXT_ 片桐絵都 EDIT_ 後藤麻寿

02 〈YMGUTS〉が持つ、3つの顔

山口県周南市を拠点に活動する女子ハンドボールチーム〈山口銀行YMGUTS〉。2018年からYMFGが運営をサポートし、創部8年目を迎えた今年、5名の新メンバーを迎え、新体制でのスタートを切りました。彼女たちの物語は始まったばかり。応援を始めるなら今が絶好のタイミングです。〈YMGUTS〉はどのようなメンバーが集まり、どんな想いで活動しているのか。試合観戦前に予習をしておきましょう。



ハンドボール愛のある選手が集結

中国地方にはハンドボールの強豪校が多く存在する一方で、卒業後も競技を続けられる環境は限られています。〈YMGUTS〉は、ハンドボールを続けたいという想いを持つ選手たちの受け皿にもなっています。「競技ができるのは今しかない」と、教員から銀行員に転身し、入団する選手もいるそうです。



フルタイムでバリバリ勤務中

選手全員が山口銀行で勤務しており、平日はフルタイムで勤務した後、週に2〜3回、遅いときは22時頃まで練習に励んでいます。業務内容も他の社員と変わらず、個人の資産運用や法人営業、窓口対応など、どの部署でも活躍できる人材を目指して働いています。両立はかなり大変ですが、引退後もキャリアを継続して働き続けられることが、選手たちの安心材料にもなっています。



次世代を育てる「先生」

選手たちは周南市の小学生ハンドボールチーム〈リトルガッツ〉の指導をお手伝いしています。地域イベントにも積極的に参加しているため、街で子どもたちに声をかけられることも。〈リトルガッツ〉の子どもが、将来〈YMGUTS〉に加入し、今度は教える立場になる。そんな良い循環が生まれ、継続的にこの環境が維持されていくことを目指しています。



試合や情報は公式LINEでも発信中！

／ 応援するなら今 ／ 新生YMGUTS 近日の試合ラインナップ

- 8月23日～24日 第79回 国民スポーツ大会(中国予選) @ 山口県下関市
- 10月3日～7日 第79回 国民スポーツ大会(本選) @ 滋賀県彦根市、近江八幡市
- 10月18日～19日 第77回 日本ハンドボール選手権大会(中国予選) @ 山口県下関市
- 12月15日～21日 第77回 日本ハンドボール選手権大会(本選) @ 広島県広島市

YMfg VOL.11

2025年7月発行
発行：山口フィナンシャルグループ
お問い合わせ窓口：総合企画部
広報・IR室：伊藤・沖永・竹内・稲本
住所：山口県下関市竹崎町4-2-36
電話：083-223-5545

企画・制作：
ECD・TUGBOAT 企画－伊藤総研
編集－山崎若菜・吉川月華 (itskn)、後藤麻与
プロデューサー－天本季恵 (itskn)
エディトリアルデザイン－村田録 (BROWN・DESIGN)
印刷－サンエムカラー

公式 Instagram でも発信中！

街の方々と交流する場所がつけられたらと思い、公式 Instagram を開設しました。マガジンの内容はもちろん、誌面で紹介しきれなかった、街のあしたを照らしてくれそうな人や場所、取り組みも発信中です。みなさまからの情報、感想もお待ちしております。 #YMfg



@ymfg_official

01 山口県 ⇄ 東京都 〈地域商社やまぐち〉の日本酒って、実際どう？

〈地域商社やまぐち〉が、街の酒蔵と連携して新しい日本酒を続々と開発中。日本酒ソムリエの千葉麻里絵さんに講評してもらいました。

老舗酒蔵の日本酒は、イタリアンにぴったり？！

高木 以前スターフライヤーで千葉さんの記事を読み、これまでにないお酒とお料理の組み合わせの提案に大変刺激をもらいました。今日は **地域商社やまぐち(※1)** がまちの酒蔵と共同開発した日本酒を持ってきたので、ぜひ飲んでみてください。

千葉 ありがとうございます。YMFGは山口県・広島県・北九州を拠点にしているそうですね。私が蔵元さんと共同開発をした日本酒《EIKUN! holic》は、岡山県産の低タンパク米「みずほのか」を使っているんですよ。

高木 なんと！「みずほのか」は広島県発祥という噂もありますし、なんだか親近感を感じました。今日お持ちした新作日本酒 **《多島海》(※2)** も、低タンパク米の「春陽」です。〈中島屋〉さんとの共同開発で「火入れ」と「生酒」の2種類あります。

千葉 この2つは加熱処理の有無だけでなく、製造工程も違いますよね？

高木 お見事。おっしゃる通りです。

千葉 「火入れ」は心地いい微炭酸と、フレッシュなマスカットの香りが口の中に広がる、艶っぽいお酒でした。日本酒にはあまりない新しい香りで、甘みと酸味のバランスが絶妙。さすがです。ペアリングするなら、同調のマスカットやライチ、梨を生そのまま白和えにしたり、甘エビのブルンとした食感とねっとりした甘みとも相性が良さ

そうです。イタリアンやフレンチに使われるハーブ系やオリーブオイルと合わせてもいいですね。

高木 ありがとうございます。「生酒」の方は、今年2月に製造・完売し、現在、来年に向けて改良を進めています。

千葉 「生酒」は、バスタチオの香りにホワイトチョコレートやナッツのような旨味を感じました。牡蠣グラタンなど、もったりとした味わいのお料理に合いそうです。搾りたてはきっともってフレッシュなのではないでしょうか。

高木 そうなんです。販売時は、青みの後に、巨峰のような香りがしていました。最近ある醸造方法を試したら、スプマンテ(イタリアのスパークリングワイン)のような味わいになったんですよ。来年もぜひ、ご期待ください。

千葉 楽しみです。普段、燗酒のような力強いお酒をつくっている酒蔵さんがこういう新しい日本酒に挑戦したという背景もいいなと思いました。〈中島屋〉さんに「春陽」を紹介したのも高木さんですか？

高木 そうです。〈中島屋〉さんらしい旨味と「春陽」は、相性がいいのではないかと思います。お声がけしました。中村信博社長はうちのブランドでは販売できないけど、技術を提供するから挑戦してみようと言ってくださり、本数限定で製造・販売することになったんです。〈地域商社やまぐち〉は、金融業で培ったネットワークを活かし、技術と技術をつなげて商品開発もしています。地域の魅力を全国に広めることで、地域課題にアプローチすることを目指しているので、酒米の開発も考えています。

山口県最高峰のお酒、じわじわと販路拡大中。

高木 続いて2019年に開発し、今年で6年目になる **《東洋の女神》(※3)** です。

千葉 剥きたてのバйнаッブルの香りが口に広がり、遅れて甘さが引き込まれてきました。余韻のある繊細で綺麗なお酒ですね。夏は氷を入れてロックできゅっといただくのも良さそう。このカブロン酸エチルというフルーティーな香りは豚肉の脂と相性が良く、お酒自体が甘口なので対極の酸味と合います。豚のしゃぶしゃぶをボン酢でいただくとか。山口県ならフグに合わせても良さそうですね。

高木 フグはスーパーにも売っているくらい身近な食材なので始めやすいですし、海外の方にも喜ばれそうですね。僕も酒蔵さんも、まずは地元の方に愛されたいという思いがあるのですが、山口県は、広島県や福岡県と比べて地場の

YAMAGUCHI

日本酒を飲むきっかけを増やしたい。



高木真吾 〈地域商社やまぐち〉営業

山口県岩国市にある〈獺祭〉の蔵元〈旭酒造〉(現・株式会社獺祭)で修行を積んだ後、2023年に〈地域商社やまぐち〉へ入社。

TOKYO

山口から海外に羽ばたく未来も夢ではありません。



千葉麻里絵 日本酒ソムリエ、〈EUREKA!〉オーナー

化学的知見から日本酒と料理のペアリングを提案。2023年、東京・西麻布に日本酒酒場〈EUREKA!〉をオープン。著書に「日本酒に恋して」等。

消費が少ない。文化を残すためには、県外に流通させる方法も考えないといけないんです。千葉 流通先を広げることは、酒蔵側の可能性や選択肢を増やすことにつながるので、かなり大切ですね。

高木 〈地域商社やまぐち〉は、個人商店が新規参入しにくい販路につなげるお手伝いもしています。《東洋の女神》は年々販売本数が増えているんですよ。

千葉 そうしたら、次は日本酒をペアリングの食材と一緒に販売するのはどうですか？ 生牡蠣のセツに、ハーブの詰め合わせとか。

高木 それはいいですね。今度、ご相談の時間をもらってもいいですか？

※3 《東洋の女神》

〈地域商社やまぐち〉が、山口県萩市にある蔵元〈澄川酒造場〉と、最高峰の日本酒を目指して開発した純米大吟醸。山口県産の山田錦を使用。



朝露のように、
儚く、



餅でも、ゼリーでも、プリンでもない
北九州の銘水で仕込んだ透明スイーツ
合馬天然水の「水玉ぷるん」

特徴
内容量
保存方法
価格

北九州・合馬の天然水仕込み
3個入り(黒蜜ときなこ付き)
直射日光を避け、常温で保存
¥1,080(税込)